

「第 29 回メディシナルケミストリーシンポジウム」開催報告

第 29 回メディシナルケミストリーシンポジウムが 2010 年 11 月 17 日(水)～19 日(金)の三日間、京都テルサにて開催されました。

今回のテーマは「低分子創薬の可能性と製薬業界におけるグローバル化を改めて考える機会を提供する」と致しました。参加者は 683 名と予想を超える多くの方にご参加を頂き、活発な議論が展開されました。ご参加頂きました多くの方に厚く御礼を申し上げます。2 日目の懇親会は、当日に参加される方も多く、219 名の方にご参加頂き、いたる所で懇談の輪が広がっていたかと思えます。

今回のシンポジウムでは、11 演題の招待講演(平成 22 年度医薬化学部会賞受賞講演 1 題を含む)と 143 演題の一般講演が行われました。また昨年度に特別企画として開催された若手研究者シンポジウムについては、今年も是非継続すべきとの多くの声を受け、企画致しました。特により多くの聴衆の方に参加頂くために、今年は独立した時間帯に開催する事とし、本シンポジウムに先立ち、初日の午前中に開催しました。そこでは 4 人の講師の方にご講演頂き、初日の午前からの講演にも関わらず多くの方に参加頂きました。今年の企業からの講演は、招待講演 4 演題と若手研究者シンポジウム 2 演題であり、実際に医薬品として承認された医薬品の創製についての発表もあり、多くの聴衆を集めました。一方、一般講演(ポスター発表)では企業からの発表は 21 演題と全体の約 2 割に留まり、前年と同程度ではありますが、今後、より積極的な企業からの参加が期待されます。

シンポジウム最終日には平成 22 年度医薬化学部会賞 1 件、及びメディシナルケミストリーシンポジウム(MCS)優秀賞 6 件(選考委員長・夏苺英昭教授)の授賞式が行われました。今年の一般発表は大学関係からの優秀な発表も多かったため、例年より多く 2 件の発表が受賞され、総数 6 件の発表が受賞されました。

○医薬化学部会賞(敬称略:所属略称)

「新規ホルモン不応性前立腺癌治療剤(ZR291)の創薬研究」

佐藤 晴彦 他 4 名(中外製薬)

○メディシナルケミストリーシンポジウム優秀賞(発表番号順:敬称略:所属略称)

1. 「1 型・2 型糖尿病モデルで経口血糖降下作用を示すベンゾトリアゾール型

レチノイド X 受容体パーシャルアゴニスト」

加来田 博貴 他 10 名(岡山大院医歯薬)

2. 「ベンゾアゼピノン誘導体の軸性キラリティーと ACAT 阻害活性

—CDスペクトルは絶対配置の決め手になるか—」

田畑 英嗣 他 8 名(帝京大薬)

3. 「前立腺癌治療薬を指向した高選択的経口 17,20-リアーゼ阻害薬

TAK-700 の創製」

加来 智弘 他 14 名(武田薬品工業)

4. 「Structure-based Drug Design による新規 Hsp90 阻害剤 CH5164840 の創製」

小宮山 享 他 15 名(中外製薬)

5. 「糖尿病治療薬を指向した GPR40 作動薬の合成と構造活性相関」

佐々木 忍 他 14 名(武田薬品工業)

6. 「抗肥満薬・NPY Y5 受容体拮抗薬 S-2367 (ベルネペリット) の創製」

奥野 隆行 他 17 名(塩野義製薬)

来年度は東京で AIMECS11 が開催されるため柴崎正勝組織委員長よりご紹介を頂きました。なお、次回の第 30 回メディシナルケミストリーシンポジウムは再来年の 2012 年 11 月 28 日(水)~30 日(金)の日程で、石原雄二氏(武田薬品工業)を実行委員長として開催される予定です。

第 29 回メディシナルケミストリーシンポジウム 実行委員長
上野 裕明(田辺三菱製薬(株)創薬化学第二研究所 所長)